



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

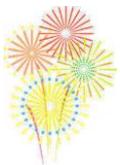
発行2019年8月1日

**8** 月 第**211**号

奈良・人と自然の会



<枯れ木の伐倒>



## Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	ならやま投句箱	9
Monthly Repo. ならやま	2	字遊字感	10
私のふるさと	3	Galleryならやま	11
里山の今	4・5	ならやまプロジェクト	12
ならやま虫だより・花だより	6	行事案内1	13
春の感謝祭・報告	7	行事案内2、奈良学クイズ	14
山もりてんこ森・報告	8	幹事会報告・編集後記	15

# 壮春 力歩

## コンサート余話

会長 鈴木 末一

森昌子還暦コンサートに出かけた。花の中三トリオとして一世を風靡したところが懐かしい。13歳、「せんせい」でデビュー、紅白歌合戦に初出場した時は、初々しくあどけなかった。テレビにかじりついて聞き入ったのが、昨日のように思い出される。

「せんせい」の大ヒット後も圧倒的な歌唱力と親しみやすいキャラクターで「同級生」「中学三年生」と続く学園三部作や、「おかあさん」「なみだの棧橋」「哀しみ本線日本海」「立待岬」「越冬つばめ」「愛傷歌」など歴史に残る名曲を次々と世に送り出した。

1985年紅白歌合戦では、史上2人目となる『司会+トリ』を務めた。その時の涙の熱唱も忘れられない一コマである。国民的歌手としての地位を不動のものにするが、翌年に結婚し引退。20年の時を経て2006年6月、ファン待望の復帰を果たす。歌唱力の素晴らしさは衰えない。幾多の人生の積み重ねが培ったのだろう。

還暦コンサートは、父(司会者)と小学生の娘(森昌子)とのコントでオープニング。昭和の歌謡史を辿りつつの熱唱に、その時々々の世情を思い起こしながら、私はまた自分史の一ページページをひもといている。

戦時中、生駒の山の西の空が大阪大空襲で真っ赤に染まった光景は、今でも忘れることはできない。食糧難の時代であり、平城宮跡は水田や畑、ならやま里山林の周辺も至る所で開墾され、サツマイモ畑などになった。

夏のこの時期になるたびに思い出すことがある。それは終戦後間もないころから、村では協働作業が行われるようになった。大和の特産品「クリーム西瓜」の栽培にほとんどの農家が取り組んだのだ。検査員が、の印を携えて早朝に各畑を巡回し、出荷適期のものを選んで1個1個押して回る。各農家では、検査が済むや否やいったん畑から畦

道へ運び出し、畦道に並んだ西瓜を畚(ふご・藁で編んだ直径90cmほどの入れ物)に入れて農道まで運び出し、リヤカーに積んで集会所まで数回にわたって運んだものだ。

集会所前の広場は毎朝、西瓜で埋め尽くされた。夜間の西瓜泥棒を防止するため、畑には番小屋を建てた。明かりは灯油ランプだった。大阪や京都の市場へ出荷するためトラックへの積み込みは、村総出の協働作業。ベルトコンベヤーなんて便利な機械はまだない。お互いに向かい合わせに横一列に並んで手渡していく人間ベルトコンベヤーである。

荷台では二段三段と次々に山積みされていく。作業する人は、山積みの西瓜の上に乗っていても割ったりすることはない。不思議だった。小学生の私は手渡しの列に加わる。西瓜を落としたりしたら大変なことだ。勝手に列から離れることもできない。ある程度の時間が経過すると、役員さんの声がかかり一息を入れる。おやつと飲み物の代わりに西瓜が振る舞われる。その時に味わった特産ブランド品「クリーム西瓜」の味は忘れることはできない。今のものとはひと味もふた味も違う。最盛期には連日大型トラック3台で大阪や京都の市場に出荷した。

積み込みの時は、隣同士色々と世間話に花が咲く。村の一軒一軒のことは、話を聞く内に自然と知った。そのような時代も終わり、専業農家が次第に少なくなって兼業農家へと変貌する。次第に西瓜栽培の共同出荷はなくなり、個別のイチゴ栽培などに代わっていった。

時は流れ、世情も大きく様変わりした。隣近所のコミュニケーションも次第に希薄になり、数軒先どころか隣は何をする人ぞ、というありさま。

近年このような社会の変化を嘆き、危惧し、なんとかしなければという風潮も生まれつつある。協働、共助などについて再評価する必要性をひしひしと感じる。ならやまプロジェクトでは、協働活動を取り入れている。その主旨を共有することが大切だと痛感する。



**Monthly Repo. ならやま**

八木 順一

**6月28日(金) 振替活動 晴れ 46名**

台風と梅雨のため振替活動日になり、参加者も少ない。また、日中は30度を超える、との天気予報。安心はできない。心したい。打ち合わせでもこの件が中心となる。また、マムシ出現の報告やイベント参加協力のお願ひなど多くが行われる。里山Gは里山林内の整備及び下草刈り、エコGは野菜の追肥や除草、そして景観Gは佐保自然の森



の草刈りを行う。またビオ班は東池周辺の草刈り、花班はハナナスの移植やミョウガ畑の草刈り、パトGは下草刈

りとパトロールを行う。

**7月5日(金) 振替活動 晴れ 49名**

梅雨の間のひと時の晴れ。振替活動になったが参加者も少ない。今日は協働活動として水田の雑草取りに取り組んだが、サイト全体に押し寄せる雑草との戦いが各Gを待ち受ける。打ち合わせでは新しく買った自走式草刈り機のお披露目の他、



今月予定されているイベントの紹介等が行われる。この草刈り機の性能には驚かされる。また昼食後には「山

盛りてんこ盛り」の打ち合わせが行われる。里山Gは実りの森の杉の伐採と運搬、エコGは水田のコナギ取り、そして景観Gは彩の森の草刈りを行う。またビオ班は水生生物調査、花班はヒマワリの移植、そしてパトGは倒木処理を行う。

**7月12日(金) 振替活動 晴れ 44名**

今日も振替活動。参加者も少ないが、熱中症気味で体調を崩した会員も出た。健康には十分気を付けたいものだ。打ち合わせでは健康管理の件やイベント等についての連絡が主なものになる。その他、ならやまで今年初めて収穫されたスイカや枝豆、そして会員差し入れのメロンを賞味する。やはりおいしい、の一言。昼食前にはイベント(夏だ・・・)の打ち合わせが行われる。里山Gはイベントの遊具の準備、エコGはコナギや陸稲の処理を中心に、そして景観Gは彩の森の草刈りを行う。またビオ班は杉丸太の皮むき、花班は花畑の草引き、そしてパトGはA地区の草刈りと工作準備、加えて果樹班ではウメの剪定が終わる。



**7月18日(木) 活動 曇り 72名+2名**

蒸し暑い。しかし参加者も70名を超え、活動にも熱がこもる。打ち合わせでは熱中症への備えが強調された他、先週実施されたイベントの報告等が行われる。そして今週末のならやまでのイベントを控え、忙しい活動日になる。天候のほうも心配されるが何とか20日には実施できたらと、心から願うものだ。近大生2名来訪。里山Gはウルシの処理の他、薪の玉切り、エコGは陸稲の植え替え、そして景観Gは彩の森や入り口の草刈りを行う。またビオ班は木道整備、花班はジャーマンアイリス園整備、パトGは4コースのパトロールとメイン階段の整備を行う。その他果樹班ではウメの剪定作業が終了。





## 私のふるさと

○ ○ ○ 小山 喜与男

「ふるさは近きにありて通ふもの」 どこかで似たような文句を読んだ記憶がおありでしょう。

ご存じ、室生犀星（むろうさいせい）の「ふるさは遠きにありて思ふもの」を振（もじ）ったものです。自分で云うのも何ですが滋賀の草津くんだりから約60キロを2時間かけて佐保の里まで通う変わり者です。

わたしの古里（生誕地）を問われれば草津から東へ25キロ、電車（草津線）で30分、自家用車で50分かかる処です。

当会に参加いただいた6年前、野菜栽培部門に入り、その面白味で一念発起、我が古里にある50～60坪の畠（7年前まで亡母が耕作していた）を復習の場とし、毎週通いだしたのです。病膏肓（やまいこうこう）に入れりであります。

滋賀県は琵琶湖を中心に湖北、湖南、湖東、湖西と4区分に呼称する慣わしがあります。

その湖南にあたる甲賀市甲南町が古里の地名です。東の三重県境に鈴鹿山脈を望み、南は伊賀の山並み、西北は近江盆地と云えども山らしき山は見えません。小高い丘陵が視界を遮っているのです。

わたしにとって、古里の象徴は川です。川の名を「杣川（そまがわ）」と云います。鈴鹿の最高峰油日岳（あぶらひだけ）（694m）を源流とする一級河川で琵琶湖に流れ込む「野洲川（やすがわ）」の支流です。川幅30m見当のこの川が少年時代の遊び場所で、我が家の裏を出て堤防を越えると砂原に着き、六尺禪姿でいざ出陣。目指すは川魚です。漁具は笹（ざる）、捕虫網、籬（やす）に箱眼鏡で釣り具はありません。獲物は季節により異なりますがアユ、オイカワ、ハヤ、カマツカ、ゴリ、ナマズ、ギギ、フナ、コイです。アユやハヤは両手に持った笹竹で交互に水面を敲（たた）きながら追い廻し、魚を浅瀬に誘い、魚が疲れて小石の下に隠れるのを待つて手掴みです。ナマズやコイ

の大物を獲った時は仲間の羨望の眼を背に勇躍として凱旋するのです。海の魚に縁の遠い田舎だけに獲物の川魚がおかずに代わるといった按配です。古語「ふるさと」にある「こぶなつりしかの川」は「おかずとりしかの川」でした。今も水量は変わりませんが魚影はみえず、台風による洪水被害なのか、コンクリートの破片が散見され、川で遊ぶ子供は見当たりません。

甲賀と申せば忍術が売りものです。立川文庫で名を知られる猿飛佐助は甲賀忍者の代表格で甲賀三郎伝説も有名です。地元では伊賀と並んで忍法のメッカであるような取り組みをみせ、JR草津線では車輛に忍者のイラストを派手に描いた「忍者列車」を日に数本走らせています。茅葺きの旧家で元製菓、売薬業の望月家の建物を「忍者屋敷」として、一般に公開し、からくり豊かな構造で忍者の挙動を偲ぶことができます。ささやかながら観光資源の代表格です。

このように描いてくると何処にでもある長閑な風景の里を想像されるでしょうが、意外にも1キロの間をおいて二カ所の温泉宿があります。塩野（しおの）温泉と宮野（みやの）温泉と名乗り該地では知らない人はありません。何れも鉱泉で沸かし湯です。このうち、宮野温泉は一般に湯場を開放していることを最近知りました。温泉は泊まり客だけが利用すると決めつけていたのです。如何にも迂闊でした。

実家での畠作業を了えて、草津に戻る途次、宮野温泉に寄り、一汗流して疲れを癒やします。午後4時半頃で滅多に相客はいません。畳二帖ぐらゐの木製湯槽と露天には直径1m余りの大きな陶製の円形湯槽があり、そこへドブンと飛び込みます。坐れば首まで浸かります。

こんな贅沢を味わえるのも古里あつての賜物です。古里との縁を絶やさない意味で毎年盆の前には田舎の町内での草刈りに参じます。自前の刈払機で堤防の雑草をなぎ倒します。旧知の方との交流は欠かせません。



**里山グループ**



里山の今

**エコファームグループ**

◆ コナラの嘆息？

森 英雄

普段の日にならやまに立ち寄り、風に揺れる里山林のコナラを眺めていた。突然、8年程前のここの出来事がふっと頭をよぎった。

某先生を初めて里山林に案内した時の事だ。「きれいに手入れされていますね」の言葉の直後に「ただ、ここのコナラ達は大分弱っていますね」と言われた。『？？立派に繁っているではないか！』。「このコナラを見て下さい。教科書に出そうな典型的な例ですよ。幹の上の方は葉があまり繁っていないのに、下の方には小枝がかなり出ていますね。この木にはてっぺんまで養分をあげる力がもうない程弱っているという事を示しているんですよ。」



確かに周りのコナラも同じ様な症状が見えた。ショック！ 里山林のコナラは消滅の方向に向かうという事か！ 40年間以上放置していた影響なのだろうか？ では今後、どのようにこの森を管理するべきか？ 里山Gのリーダーとして再検討を求められたのである。

里山再生法としては、立木を徹底的に切り、明るい空間を作って萌芽(ほうが)再生・植樹等をする昔からの方法がある。これは手間・時間がしっかりかかるが、整備管理を請け負っている者として、里山を持続させるためには避けて通れない道だろうと考えた。我々の伐採能力等から計算すると里山林全体では10年位かかることになった。

当時はナラ枯れ調査を始めた時点であり、ナラ枯れ対策とこの部分皆伐を並行して進めることにした。その後、ナラ枯れが想定以上に激しく3年間程はチェーンソー片手にその対策に専念した。2年程前にナラ枯れが治まり、本来の里山林整備を行っている。作業は地味ではあるが、丁寧に一步一步進めていかねばならないと思う。

さて、8年前の記憶が突然浮かんだのは里山林のコナラの悲痛な叫びのせいだったろうか？ 確かにナラ枯れしなくても弱って枯れたコナラがかなりあったように感じられたなあ…。

◆ 協働作業 水田の除草

宮崎 まさ美

ハダシになって田んぼに入る。田んぼにはびっしりと草。コナギだ。よく見ると、まるい葉とちょっと細長い葉と。長いのはアメリカから来たのか？ 「花はかわいいんだけどなあ」と言いながら作業開始。

隣には青木幸子さん。両手で掻き取った草を足で泥の中に埋め込んで、どんどん進んで行く。同時に入ったのにどんどん水が開いていく。こちらは取った草を入れる籠を支えに、片手でよろよろ。進まない。青木さんの“昔取った杵柄”、さすが！

「腰痛い！」作業は遅いくせに、音を上げるのは早い。

向こうで黙々と進んで行くのは鈴木経子さん。こちらは現役。さすが！「昔の人は全部こうして手で取ってたんやなあ」「田んぼ1枚ちゃうで、何枚もある田んぼ全部やで」——昔の人は偉かった。体もエラかった。

網のお面を付けて、草取りをしていた母を思い出す。早朝に拭き掃除をしてから、農作業に出ていた兄嫁を思い出す。

「タガメがおったで」と喜んでいた辻本さんのなんじゃかんじゃいう声も聞こえなくなった。どうやら皆も疲れてしまったらしい。「何か面白いこと言うて」「白犬はオモシロイ」——おもしろい。アカン。

まだ草は残ってるけど、早々に切り上げ。「皆でやったら早い」「こんだけ取れたら上出来や」それぞれ自分を慰めて、終了。残りは次週のエコファームグループにお任せ。

右手、両足の爪には黒い泥。しっかり入り込んでなかなか取れない。お風呂に入ってもダメ。夜はぐっすり。いつにもましてぐっすりと。



しんどい作業を一緒にしてくださった皆さん、ありがとうございました。

**景観グループ**



里山の今

**パトロールグループ**

◆ ラグビーを好きな人に、悪い人はいない

澤田 好男

本年9月～11月、ラグビーワールドカップ2019日本大会（以後、RWC2019）が開催されます。

前は2015年のイングランド大会でした。弱小=日本代表が世界ランキング3位（当時）の南アフリカ代表を破り、“ジャイアントキリング（大番狂わせ）”と騒がれたものです。

私も渡英し、日本代表の試合、オールブラックス（NZ代表）の試合、アルゼンチン代表の試合をこの目で観ることができました。熱戦だけでなく、会場の盛り上がり、ボランティアスタッフの献身、パブでの歓待を忘れることはできません。

ラグビーの聖地=トウィッケナムラグビー場も訪れました。この時にツアーガイドをしてくれた老紳士の言葉をご紹介します。

この球技場は8万3千人の観客を収容できます。例えばここで、イングランド対フランスのような“サッカーの国際試合”を行うとすると、約500人の警官を動員する必要があります。では、クイズです。ここで、イングランド対ウェールズのような“ラグビーの国際試合”を行うとすると、何人の警官が必要でしょうか？

[ ツアー参加者からは、「50人」、「2000人」といくつかの回答がありました。果たして、老紳士はおもむろにこう答えたのです。]

答えは、……“ゼロ”じゃよ。ラグビーを好きな人に悪い人はおらんからな！ 警官など不要なのじゃ。



花園ラグビー場で、テレビ観戦で。一緒に、RWC2019を盛り上げましょう！

『4年に一度じゃない。一生に一度だ。』

2019年ラグビーW杯の公式キャッチコピー

◆ 久しぶりの観察路

山本 美智子

6月26日、関西の梅雨入り宣言があった。例年に比べてずいぶん遅い。しとしと降るかと思いきや、前線が停滞したところでは、命にかかわる豪雨災害をもたらしている。

この「ならやま」はなぜか木曜日に雨となる日が多い。私は、振替活動の金曜日は、仕事のため参加できないので恨めしい限りだ。

1か月ほど、抜けていたパトロールに久しぶりに参加。木々のうれしい芽吹きから、若葉、青葉へ。楽しみのササユリの花も終わり、目まぐるしい勢いで自然は姿を変えていく。樹形は厚く、濃く生茂り深い森になっている。

観察路は、メンバーと新入会員みんなのたゆまぬ補修、改善の活動のパワーアップで、丸太階段、手摺ロープは万全である。階段の杭も竹から木へとすべて取り替え済み。（高齢の菊川さんやみんなの労力の大切さを思うと、申し訳なく、感謝でいっぱい）。せめてはと、希少植物保護の紐を補修したり、観察路

に迫り出した笹や草を鎌で刈る。笹には、いつも追いつ、追われつだ。

「暑い間は伸びるの休んでよ」と思わず声をかけたくなる。この時期、どこも笹や草との戦いである。

しかし、草がはえ、木が茂り、実がなる、この当り前の自然が愛しい。大切にしたい。

手や足腰に故障の来ている私ではあるが、今日のパトロールのご褒美か、高く、やさしく、時には鋭く、たくさんの鳥の声が私を包んでくれた。会員の皆さま、おのこの活動に多忙とは存じますが、メンバーの労力の賜物の観察路を一度ゆっくりと歩いてみませんか。

得るものは皆さまそれぞれでしょうが、いい事受け合いです。お待ちしております。



**ならやま虫だより**

◆ ならやまの昆虫の異変

菊川 年明

今年前半期のならやまの昆虫に、嬉しい異変と嬉しくない異変があった。

**\*ハラグロオオテントウ**

嬉しい異変である。テントウムシの1種で、たいへん大きく、体長は12mm前後、わが国産テントウムシ類では最大級である。ちなみに、よく見かけるナナホシテントウは8mm前後である。

このテントウムシは、以前、ベースキャンプの前にあった大きなクワの木で、毎年5月の上旬に見られたが、数年前にこの木が倒れてからは全く姿を消していた。

ところが、今年はベースキャンプの西の若いクワの木に突然現れた。4月の終わり頃から5月下旬まで、従前よりかなり長期間見られ、数もたい

へん多かった。食べ物は幼虫・成虫ともにクワの木につくキジラミというアブ

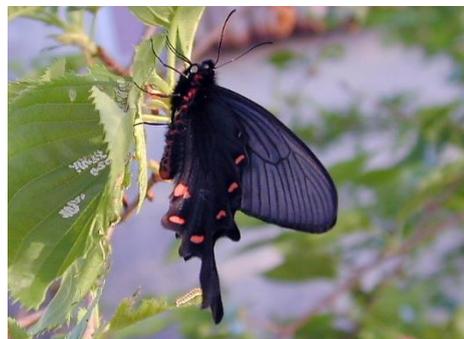


ラムシに近い小昆虫である。

**\*ジャコウアゲハ**

嬉しくない異変である。このアゲハチョウはならやま園地のマスコットのような存在で、幼虫のために食草のウマノスズクサを植えている。この植物は有毒で、幼虫・成虫ともにこの毒の成分を体内に蓄えるので、野鳥は襲わず、したがって、このチョウはいつも悠然と飛んでいる。

ところが、どうしたことが、今年はならやまには全く現れず、幼虫の食草のウマノスズクサだけがむなしく繁っている。



里山の今

**ならやま花だより**

◆ 自然には人の手作業が一番

桜木 晴代

自然教室の10円磨きに使用するカタバミの採取のため、事前に生育地を探す。身近なところで十分な量のカタバミを発見。前日に採取し、冷蔵庫で保管の心づもり。ところが当日、目を疑う光景が。なんとカタバミを含む草たちがすべて無くなっていたのである。見事な草刈り。

その数日後、近所の子もたちとの花遊びに使うためのたくさんの小ぶりのエノコログサが、駅前の花壇周辺で風に揺れているのを見つけた。採取当日行ってみると、またまた、草一本残さない真面目な作業？ 昨日まであんなにあったのに！！！！

最近では、草原や沿道その他で、茶色に変色した異様な草たちを目にする。おそらく、人手のいらない除草剤が使われているのであろう。除草剤は、見事に全ての草を茶色く枯らす。そして、愛らしく咲いていたスマレやネジバナ、ホタルブクロの息の根も止める。

ならやまでは、今年も、生い茂る草たちとの格闘が始まっている。例年より草の茂り方がすごいと感じる。野の花好きの会員は、愛しい花たちが刈られてしまうことに常に胸を痛める。

過日、景観Gのリーダーに花好きの胸中を話すと、「何を言ってるの！草は刈ってこそ！もっと勉強を！」と返された。確かに、刈ったあとには健康な草が生き生きと生える。野の花を愛でることができるのも、草刈りのお蔭なのかもしれない。

今、ベースキャンプ周辺では、エノコログサ・タンポポ・ヨウシュヤマゴボウ・アカバナユウゲショウ・オオバコなどが花をつけている。

猛暑の中、汗だくになり、草刈り機で、生い茂る草たちを刈る人たちに感謝！

とにかく、体調に留意し、全員が元気に暑い夏をのり越えられますように！



アカバナユウゲショウ

## 春の感謝祭

### ならやま産野菜タップリのカレー

藤原 勲

関西地方は未だ梅雨入りの声が聞こえてこない  
6月20日、恒例の春の感謝祭が開かれました。この日も雨の気配はなく好天に恵まれ朝早くから各地より元気な71名の笑顔が集まってきました。

朝のミーティングで鈴木会長から、ボランティアによる人と自然の共存の取り組みが全国各地で行われているが、高齢化等で活動が低下、縮小していく傾向のなか、当会の右肩上がりの発展・活動に興味を持つと共に、先般発行された図録「見つけよう自然のなかま」にも注目した朝日新聞が「天声人語」にその状況等を掲載する予定だとの報告になにか誇らしげな気持ちになり、これからも元気に頑張っていこうと改めて感じました。

さて今日のカレー作りは吉川総監督のもとエコファームのメンバー中心に進められました。

具材はジャガイモ 3.5kg、タマネギ 7.5kg、ニンジン 20本、牛スジ肉 2kg。

小山コック長特製カレーは大鍋に油を引きニンニクを炒め、上の具材とリンゴもたっぷり、ブイヨン、ココナッツミルク、ホールトマトペースト、赤ワインを惜しげもなく鍋に入れていきます。

ここでならやま特製の1mもある竹製の船の櫂のような形をした大スプーンで具材をかき回していきます。煮立ってきたらカレーのルーはハウスバーモントカレー・ジャワカレーの中辛・甘口、ビンダルペースト(辛いスパイス)、カレーパウダーの後、隠し味としてリーベリンウスターソースを入れじっくり煮込んでいきます。

トッピングは、吉村リーダー始め女性陣による野菜の素揚げ(ジャガイモ、ズッキーニ、ナス、カボチャ、ピーマン)。

サラダはブロッコリー、キャベツ、キュウリ、ニンジン、サラダ菜、トマト、サラダタマネギ、コーン。

漬物は中華風たたき胡瓜、福神漬け、ラッキョウ。デザートにはメロンまで!

ご飯の米はヒノヒカリ(白米)、サヨムラサキ(黒米)各3.5升を男性陣が薪竈で煙と汗と格闘しながら2回に分け、少しお焦げもできるほど見事に2時間ほどで炊き上げました。

息の合ったチームプレーで準備はほぼ予定通り整い、まほろばカレーのできあがり!



お昼前になると各部署から今日の作業を終えたメンバーがカレーの匂いにひかれるようにベースキャンプに戻ってきました。

感謝祭スタートの声とともに2枚のお皿(カレー用、サラダ用)を持った長蛇の列ができ、効率良く並べられた配膳台の前を進んでいくとたちまち両方の皿に料理が盛り付けられ食事が始まりました。皆さん働ける喜びと大地の恵みに感謝の気持を持って賞味されているようで、うまいウマイの声や笑顔が広がりお代わりされる方も……。

紫陽花の咲く緑陰広場には美しく和やかな時間がゆったり流れているようでした。



## 奈良県山の日・川の日 「山もり・てんこ森」イベント報告

羽尻 嵩



7月15日(月・海の日) 10:00~15:00

「山もり・てんこ森」のイベントが高取町の森林技術センターで開かれました。主催は、奈良県の「ポスト全国豊かな海づくり大会実行委員会」です。海のない奈良県ですが、この海の日に「山と川の恵みに感謝する」イベントを持つことになり、我々の会もこのイベントに毎年出展してきました。

今年は、竹細工のブンブンゴマと大王松の松ポックリを使ったノラクロ(子犬)ストラップで、特に工作材料の準備をしていただいた村上さんと桜木さんに大変お世話になりました。



早朝から14名のスタッフが現地に集まって、9時過ぎには準備完了でした。

10時から出展。雨模様の天気のためか、最初は参加者の出足が少なく、どれだけ来てくれるかなど心配していましたが、そのうち天候もよくなり、沢山の子どもたちと保護者で満席になってきて、スタッフも全員総出で大忙しでした。



1時頃が集客のピークで、スタッフのアットホームな対応もあり、特に私たちのブースは人気があったようです。



今回の森林技術センターでの、我々以外の出展は、ガリガリトンボなどの自然工作、木工工作、キハダの木の皮で染め物体験、割り箸作り、丸太のポックリ作りなどの他、森林インストラクターの案内でセンター内の樹木を観察して歩く企画、林業機械操作体験、スギバイオリンとスギチェロの二重奏コンサートなどもあり賑わっていました。

工作の使用数は、ブンブンゴマが145セット、ノラクロストラップが100セットでした。

スタッフ14名の皆さん、ご苦労さま。お土産は子どもたちの笑顔でした。

ならやまトリーク・投句 盛夏編

新じゃがの零れ落ちそに一輪車 藤原 勲

(ジャガイモの収穫。山盛りに載せた一輪車が、よろめきながら畝間を行き交う。 収穫の楽しさと充実感の一句)

紫陽花の主役となりて里の道 鈴木末一

(緑一色の里山に、ひととき存在感を示す紫陽花。散策する人達をもてなす心意気が見える・・・ 花グループの皆さん、有難う)

長梅雨に悲喜交々の野菜たち 鈴木末一

(例年がない気候不順。曇天続きで日照不足に夏野菜たちの生育も今ひとつ。ああ眩しい日の光が欲しいよー・・・ 野菜の嘆き)

西瓜畑しめしめしめとアライグマ 鈴木末一

(ついに来たか、西瓜畑にアライグマ。24号バイパスとJRのバリアを突破して。彼らの嗅覚は凄いなあ・・・ こちらも対策だ！)

昼餉時うちわ風より山の風 坂東久平

(昼休みの緑陰広場、盛んに動く団扇。山から爽風一陣・・・ いいなあ)

つゆ晴間天衝くがごと梅栞 ずわえ 古川祐司

(梅の徒長枝「栞」、長雨間で猛然と伸びる。まるで怒った針鼠だ)

梅干の一つで足らぬ今日の汗 古川祐司

(猛暑日。梅干を朝一つ、弁当に一つ、ウメ飴にお茶と万全の備え)

投句歓迎 (古川まで)

世が移り男もすなる日傘かな 岡田安弘

(デパートで、男ものの日傘売り場があったのには驚いた・・・ 男も化粧する時代ですかね)

オーイ夢続き見たさに昼寝かな 岡田安弘

(夢はどうしていいとこの手前で目が覚めるのかなあ・・・ 同感！)

絵筆とる背中に痛し夏日刺す 八木順一

(俳句も絵画もたしなむ作者、烈日の中で写生ですか・・・ お大事に)

野良仕事類張る桃の甘さかな 八木順一

(畑には桃の木も植えてあるらしい。樹で熟れた白桃は絶品だとか、これももいでそのまま頬ばる・・・ ああ、至福の瞬間！)

大杉谷大滝の落つ音もなく 中井 弘

(大杉谷の名滝、堂倉滝。不思議にも滝壺は静寂に包まれている)

田植機の跡見定めて老夫婦 田代一行

(歴史の下見。唐古遺跡の田圃。若者の田植機の運転を守る老夫婦)

行々子7月号で鳴き納め 坂東久平

(会報の編集責任者を7月号で交代。四年間お疲れ様・・・ギョギョシ)



痛快な遺伝子

岡田 安弘

俳優の樹木希林が、たくさんの名言を残して逝った。半年後、亭主の内田裕也を呼び寄せる。長かった別居生活を冥界で取り戻すかのようだ。いち押しの名言はこれだろう。「私、1回ダメになった人が好きなの」。



「自分が不器量だと早めに気付かされちゃってね。それで案外、男を見誤らないできたという確信がある」と語っている。男だけではない。売れなくなったアイドル歌手の浅田美代子に早くから目をかける。浅田の代表作にと主演映画を企画、倒れる直前に完成させた。人気TVドラマ「時間ですよ」の出会いが縁らしい。人生の節目節目に手を差し伸べてきた。夫に対しても同じだった。



内田裕也に、お迎えがきた。日本のロックンロール界を牽引した79歳。私はジャズを聴いて60余年。ロックは好みでない。別格のエルヴィス・プレスリー以外は聴かない。だけど裕也は何故か気になる。今さらながら振り返っている。

裕也17歳、日劇ウエスタンカーニバルでメジャーデビュー。1歳下の私は高校劣等生。授業後、京都のジャズ喫茶で生演奏を聴き始めたころだ。ある日、異色の若者がステージに踊り出る。破れかぶれのような唄いぶりが、脳裏に刻まれた。

ジョン・レノン（ビートルズ）の妻で前衛芸術家のオノ・ヨーコが裕也を罵倒したことがある。

「あんた、ヒット曲がないわね」。以来、「俺は売れない二流歌手」とステージで叫び続ける。これほど自分の生き様を的確に表現されては憎めない。

破天荒ぶりは、ロック界の伝説となる。圧巻は東京都知事選立候補だ。政見放送は沈黙、突然ロックを唄う。対立候補の「鈴木俊一」と書いたタスキで街頭に立つ。「どうか入れないでください」。



青山葬儀所で裕也を偲ぶ「Rock'n Roll 葬」が4月に開かれた。各界の有名人950人、ファ

ン750人が参列した、とTVで芸能レポーターが実況中継している。「あんたを独りにしたら危ないと、樹木希林さんが呼んだんよ」。タレントの堺正章が遺影に語りかける。誰しも同じ思いだろう。



希林と裕也の別居生活は40年。随筆や通訳で活躍する長女の也哉子が喪主。参列者に謝意を述べる。「父と暮らした時間は、足しても数週間にならない。私の知る内田裕也は、いつ噴火するか分からない火山のようであり、同時に溶岩の間に、ものともせずに咲く野花のように清々しく無垢な存在でした」。

オノ・ヨーコが見下しても、しれっとかわして我が道を行く。そんな父を溶岩の野花に例える。

謝意に続いて「彼らしく送りたい」と遺影に向き直る。ひと呼吸おいて、Fuckin` Yuy a Uchida。さげすむかのような言葉遣いだ。Don` t rest in just Rock` n Roll!と続く。「親父よ、安らかに眠るな！ロックンローラじゃないか！」と言っている。娘に流れる両親の遺伝子を見た気がする。



遺影は愛用のステッキを手に、凄みの効いた顔。17歳の裕也が甦る。あの顔つきは昔と変わらない。テレビを観ながら気付いた。「二流のどこが悪い！」。胸の内は思わず裕也の口調に合わせていた。

レポーターが娘婿の俳優、本木雅弘にマイクを向ける。「予定不調和を生きてきた義父です。つつがなく終えたのも、ある意味で奇跡だと思う」。これも名言。心にそよ風が吹いた。

家族に聞くと、本木も元アイドルだそう。ジャニーズ事務所の3人組「シブがき隊」の一人、愛称「モックン」だとか。TV番組で海外取材をすることになったとき、通訳として同行した也哉子と知り合う。

希林と裕也の一家に、新しい遺伝子が流れる。痛快な血筋の永遠に続くことを祈る。





Gallery ならやま



▲油絵「馬の背ヒュッテ」永井 幸次



▲園芸「デンドロビウム」坂東 久平



▲草木染 小島 武雄



▲クラフト「フクロウ」鈴木 末一

皆さまからのご応募お待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
活動予定日

8月	1 (木) 8 (木) 22 (木) 29 (木) <15日はお休みです。>
9月	5 (木) 12 (木) 19 (木) 26 (木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約16haの里山林地（県有林）
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前8時
- ◆終了予定：午後1時（夏時間）（9時）

## ◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分
  - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統 8:28発、高の原行き（平日）
  - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統 8:36発 JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車 徒歩7分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



- ◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



- ◆連絡先：八木 順一

## 里 山

### 8/1 協働活動・アダプトプログラム

経団連部分皆伐地区下草刈り（協働）  
植樹周辺の下草刈り／里山林内の整備  
薪割り・薪材玉切り及び運搬／イベント準備

8 22 植樹周辺の下草刈り／里山林内の整備／薪割り・薪材玉切り及び運搬／イベント準備

29 同上＋イベントの後片付け

\*ユートピア：松林の笹・草刈り及び松の芯摘み 防温シート張り

## エコファーム

### 8/1 協働活動・アダプトプログラム

サツマイモの除草、つるの返し  
茄子、唐辛子、ピーマン除草 追肥  
果樹：梅林草刈り

8 葉ボタン、ブロッコリー種まき  
桜島大根、YRくらま大根 畝作り

そば：カボチャ収穫／草引き／肥料散布／石拾い

22 桜島大根種まき、各種冬野菜の畝作り

そば：草刈り／耕運依頼／畝立て

29

西瓜、南瓜、畑撒収／各種冬野菜の種蒔き

そば：そば種播種

果樹：草引き

## 景 観

蜜蜂：巣箱周辺草刈り

### 8/1 協働活動・アダプトプログラム

整備：彩りの森周辺草刈り

ビオ池：池整備

花：ジャーマンアイリス園草取り／アジサイ剪定

8 整備：実りの森草刈り

ビオ池：池整備

花：日蔭植物園花摘み取り／アジサイ剪定

22 整備：BC周辺草刈り

ビオ池：生物調査とイベント準備

花：アジサイ園の草取り／アジサイ剪定

29 整備：実りの森草刈り

ビオ池：池整備

花：アガバンサス園花摘み取りと草取り

アジサイ剪定

## パトロール

### 8/1 協働活動・アダプトプログラム

笹草刈り／ミーティング

観察路安全ロープ補修／メイン階段工事

8 22 29

笹草刈り／丸太階段補修／メイン階段工事

パトロールコース：2→3→1→2

# 行事案内 part 1

8月自然教室のご案内



## 「平城宮跡・燕の埒入り」

辻本 信一

8月19日(月)毎年この時期恒例となっている「燕の埒(ねぐら)入り」観察会を平城宮跡・大極殿西側ヨシ原周辺にて実施いたします。

ところで、みなさんは「燕の埒入り」をご存知ですか？

渡り鳥の燕は、春になると東南アジア方面から日本に渡ってきて家の軒下などで巣を作り子育てを行います。8月の終わり頃になると「渡り」の準備のためエサの豊富なヨシ原などに集まり、日本を去るまでのあいだ集団ですごします。

この燕たちは黄昏(たそがれ)時になるとどこからともなく飛来し、空一面に群がり、その後次々に埒(ねぐら)とするヨシ原などに舞いおります。

その姿、そのスケールは圧巻で「燕の埒(ねぐら)入り」と呼ばれ、全国各地でみられます。

その中でも平城宮跡の「燕の埒入り」は、ヨシ原のすぐ近くで見ることができ、規模も大きく、特に有名で約6万羽の燕が飛来すると言われています。

自然教室チームでは、昨年に引き続き、今年も下記要領にて「燕の埒入り」観察会を実施いたします。

1. 日時：8月19日(月) 18:00～19:30
2. 場所：平城宮跡、大極殿西側ヨシ原周辺
3. 持ち物：暑さ対策グッズ、双眼鏡、飲物など
4. 中止の判断：当日午後3時に雨が降っている場合、またはその後雨が予想される場合は中止致します。
5. 担当：自然教室チーム・辻本

リピーターの方もたくさんいらっしゃいますが、これまで見たことが無い方には、ぜひ一度、見ていただければと思います。お友達もお誘いあわせのうえ、多数ご参加ください。

皆さまのご参加をお待ちしております。

「奈良県山の日・川の日」公開イベント

「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！②」

戸田 博子

「奈良県山の日・川の日」「山と川の月間」に、子供たちとその家族を対象とした夏の公開イベント「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！②」を、7月に続き下記内容にて実施します。

最も暑い中でのイベントですが、参加される皆さまに、自然の大切さ、自然の中で遊ぶ喜びを知ってもらいたいと考えています。

1. 日時：8月24日(土)  
9:00～15:00 予定(受付開始 08:30)  
前日19時前のNHK天気予報で奈良県北部の降水確率が50%以上の場合、8月31日(土)に延期。
2. 場所：ならやまベースキャンプ
3. 内容：  
(天気その他の状況によっては、変更あり)  
9:00～9:30 開会式セレモニー  
9:30～11:00 自然観察、自然工作  
11:00～11:40 飯盒炊さん  
11:40～13:00 昼食とあと片付け  
13:00～14:00 里山遊び、里山散策  
14:00～14:30 閉会セレモニー
4. 参加費用：子供、保護者各自一人 500円
5. 募集人員：小学生子供30名及びその保護者
6. 申し込み方法：8月5日よりメールにて受付  
メールあて先：[event@naranatura.com](mailto:event@naranatura.com)  
受付担当：辻本信一
7. その他詳細は8月5日以降の当会HPをご参照ください。

奈良県下から多くの参加者が見込まれますので、暑い折ですが、会員の皆さまには多数ご参加いただき、参加者と楽しみながらお手伝いをお願いしたいと思っております。



# 行事案内 part 2



9月歴史研修会ご案内

## 世界遺産の百舌鳥・古市古墳群へ

河内王朝の実像を求めて

田積 彰男

◆2019年7月6日、百舌鳥古墳群・古市古墳群がユネスコの世界遺産に正式に登録され、今回は時期を得た企画となりました。奮ってご参加ください。

- ・日 時：令和元年9月11日(水) 雨天実施
- ・集合場所：近鉄西大寺駅 9:00 集合・出発
- ・移動方法：マイクロバス
- ・解散場所：近鉄西大寺駅 18:00 解散予定
- ・持ち物：弁当 飲み物 雨具(帽子・日傘)
- ・行程：堺市役所 21階展望ロビー→堺博物館→  
反正天皇陵→仁徳天皇陵→履中天皇陵→  
ニサンザイ古墳→(河内ワイン)→はびきの中央霊園展望所(古市古墳群展望)
- ・状況により一部訪問先変更の可能性があります。
- ・参加費：3500円位(博物館入館料400円含む)
- ・申込先：事務局 青木幸子
- ・世話人：田積彰男・田代一行・中井弘

・堺市に44基もある百舌鳥古墳群。世界一の面積を誇る墳墓である仁徳天皇陵など、古代遺産として文句ない規模と造形が見られます。地上からの見学では巨大すぎて全容を把握しがたいのも事実。まず堺市役所の21階展望ロビーから全貌を把握後、河内王権の天皇陵古墳を巡ります。きっと古墳のスケールとともに古代に生きた人々の息吹が感じられるでしょう。

・「はびきの中央霊園展望所」から羽曳野市、藤井寺市に点在する古市古墳群を一望します。

## 9月ならやま活動&行事予告

- \* ならやま活動(木)  
5日 協働活動日
- \* 自然教室  
11日(水) 佐保台小 昆虫観察会  
16日(月) 奈良公園 自然観察会
- \* 歴史文化クラブ  
11日(水) 百舌鳥・古市古墳群へ  
河内王朝の実像に迫る(1)



■ □ \*\*\*\*\* □

## 奈良学クイズ

【問】写真の鴟尾は、ある工事中の建物に取り付けられたものです。この建物の名称をお答えください。



締切日：8月3日

宛先：鈴木

景品：ミステリー???

2019年7月度幹事会報告

日時：6月25日(火) 14:00~16:45

場所：奈良市中部公民館

出席者：20名、欠席者：3名

(議事録よりトピックスのみ)

I 会長挨拶

- ・図録配布好評

II 事務局・会計報告

- ・会員数：170名(先月末から変化なし)
- ・5月度会計報告

III 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

- ・ならやまプロジェクト委員会の設置  
目的：コミュニケーションを密にし、計画性を高めて全体として整合性のある活動につなげる。

委員会の開催：毎月幹事会前週木曜日午後  
メンバー：会長、副会長、事務局長、会計、各グループリーダー

- ・7月から大通り下階段整備開始(約1.5か月)
- \*以下詳細は、メール連絡、またはHPに記載
- ・3か月スケジュール
- ・ならやまプロジェクト各グループ活動報告
- ・山もり・てんこ森、里山で遊ぼう について
- ・普通救命講習 今後とも参加を奨励。

IV 企画・助成金事業案件

- ・創立20周年記念事業準備委員会の設置  
2021年の20周年に向けて準備委員会を設置し第1回を8月27日午前を開催する。
- ・助成金事業 応募事業を絞り込み検討中

V 喫緊・提案事項

- ・ならやまフィールドでの活動基準  
奈良県との協定書を踏まえながら、「当会が責任を負える活動であること」「非営利のボランティア活動であること」を再確認。基準に照らして疑義のある活動は受け入れないし行わない。

VI 広報関係

- ・8月号会報誌編成と執筆者の確認
- ・HP担当は辻本に。

VII 報告・連絡事項

- ・活動報告と予告：会報誌参照
- ・8月度幹事会 7月30日

以上

◆ 申し合わせ ◆

\* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報(奈良气象台17時発)で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。

お問い合わせ:八木

\* 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。

\* 臨時活動日を月曜日にすることがあります。(事前に担当役員から連絡します。)



<ロマンを乗せて>

ハヤブサ2がまた偉業を成し遂げた。太陽系が誕生した46億年前以降に大きな天体が衝突を繰り返し、砕けた破片が集まってできた小惑星りゅうぐう。地球から2億8千万キロも離れている直径900mの惑星。着陸するには日本からブラジルにある6cm径の的に当てるのに匹敵する精密さが要求される!! 惑星の表面を吹き飛ばして採取された物質から、生命の起源にせまることができるかもしれないか。だからどうなの? と思っはいけない。ロマンを乗せた6年におよぶ56億キロの旅の終わりは来年末ころ。無事を祈ろう。

歴史ある充実した会報誌を受け継ぐことは大変に重いことですが、編集チームが力を合わせて務めたいと思います。皆さまのご協力をよろしくお願いたします。

発行:奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一

URL : <http://www.naranature.com>



編集チーム：青木(幸)、青木(芳)、澤田、千載、田代、戸田、坂東、山崎

表紙写真 「枯れ木の伐倒」

みんな力を合わせてそ〜れ!! (6月20日)